

## [基準1] 理念・目的

### 1. 現状の説明

#### (1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は適切に設定されているか

##### ① 理念・目的を確立し、明確にしているか。

＜高等教育機関として大学が追及すべき目的を踏まえた本学の理念・目的＞

明治大学は、1881（明治14）年に司法省法学校にてフランス法学を修めた若き法律家である岸本辰雄・宮城浩蔵・矢代操の3名によって、明治法律学校として創立された。その「明治法律学校設立ノ趣旨」においては、法律学の目的は「権利自由」の確立にあり、「健訟ノ具」（濫訴の手段）であってはならない旨が格調高く謳われている【1-1-1】。その後、明治法律学校は、1903（明治36）年、専門学校令による文部省の認可を得て「明治大学」に昇格した。開校に当たり、初代校長である岸本辰雄は「明治大学の主義」と題する演説によって「学問の独立、自由、自治の精神」を明治大学の建学の精神として追加し、本学の教育方針を「徹頭徹尾開発主義なり、自由討究主義なり」とした【1-1-2】。ここにおいて、本学の「建学の精神」は「権利自由」「独立自治」と確立した。すなわち、「明治法律学校設立ノ趣旨」で示された「権利自由」、そして「明治大学の主義」で述べられた「独立自治」である。

「建学の精神」を頂点とした、全学の歩むべき「理念」や「使命」、さらに「教育目標」を「明治大学グランドデザイン 2020-ビジョンと重点施策-」（以下、「明治大学グランドデザイン」）に示している【1-1-3】。これは、2011年に迎えた創立130周年を契機に、創立150周年を見据え、「建学の精神」や「本学の理念」、「本学の使命」を再確認すると同時に「教育目標」ともなる10年後の将来像（ビジョン）とそれを実現するための重点施策を示したものであり、後に説明する「学長方針」等の実行計画策定の指針としているものである。

＜本学の「目的」及び各学部・研究科の「人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的」の規定＞

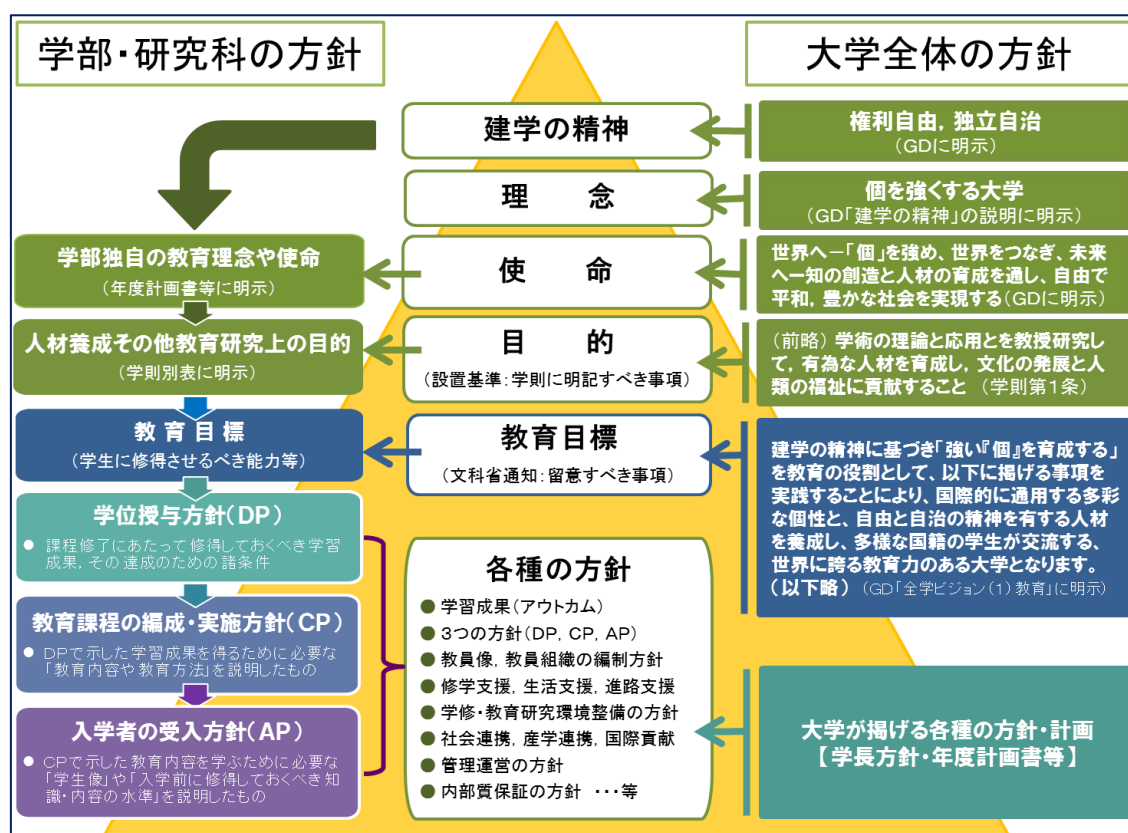
明治大学グランドデザインでは、建学の精神である「権利自由」「独立自治」を、個人の権利や自由を認め、学問の独立を基礎として自律の精神を養うという理念を広く普及させることを意味し、「個」の確立を通じて近代化を図るべきであるとの視点のもと、近代市民の育成を目指すとして説明し、さらに「個」の確立を基礎とした教育は、自由と自治の精神を養う『『個』を強くする大学』という本学の「理念」として継承されていることを示している。本学では、以上のように「建学の精神」と「理念」を示し、さらに21世紀に向けた将来像として、「本学の使命」を「世界へ - 『個』を強め、世界をつなぎ、未来へ -」「知の

## 基準1 理念・目的

創造と人材の育成を通し、自由で平和、豊かな社会を実現する」と定めている。

これらを踏まえ、大学においては、学則第1条に「本学の目的」を「学術の理論と応用とを教授研究して、有為な人材を育成し、文化の発展と人類の福祉に貢献することを目的とする。」と定め【1-1-4】、大学院については、大学院学則第2条【1-1-5】、法科大学院学則第2条【1-1-6】、専門職大学院学則第2条【1-1-7】にそれぞれの目的を定めている。これら目的を踏まえ、各学部の学科及び各研究科・専攻は、「人材養成その他教育研究上の目的」として学則別表【1-1-8】、大学院学則別表【1-1-9】及び専門職大学院学則別表【1-1-10】（法科大学院は本則に規定しているため除く）に明文化している。

明治大学の理念・目的・方針等の体系図



### ② 理念・目的は実績や資源から見て適切に設定され、具体化に向かっているか。

理念・目的と大学の実績や資源との整合については、毎年度、明治大学グランドデザインに基づき、学長が教学の重要課題をまとめ、「教育研究年度計画書の策定とその推進について(学長方針)」(以下、学長方針)を策定する中で、整合を担保している【1-1-11: 1~30頁】。特に、各学部等が年度計画(案)については「学長、教務・学務担当理事ヒアリング」の場で大学執行部が各学部等と意見交換を行い、実績や現況を踏まえて理念・目的の実現に向けた計画策定に向けた検討を行っている。【1-1-12(学長ヒアリング関連資料)】

ただし、学長方針の内容は、大学全体で推進する事項と各学部が推進する事項、さらに

## 基準1 理念・目的

各学部が責任主体となるものの大学全体で支援する事項等の区分が不明確で、各学部等が年度計画を策定する際の明確な指針となる内容となっていない。指針とより機能させるため、学長方針と各学部等との年度計画の整合を図るための工夫が必要である。

理事会では、大学で定めた「明治大学グランドデザイン 2020」を踏まえ、2012年1月に「学校法人明治大学長期ビジョン」【1-1-13】を策定しており、2013年度には、このビジョンを具体化するための「中期計画」を策定するため、学校法人明治大学中期計画策定委員会を設置し、検討を開始している。大学と法人が一体となってグランドデザインの具体化に向けた取り組みは進んでいる【1-1-14】【1-1-15】。

### ③ 個性化に対応して、将来的な方向性は明らかにしているか。

学長室（教学企画事務室）では「明治大学グランドデザイン 2020」の実現に向け、国内外の環境変化や、高等教育への影響、学生の学習実態に留意しつつ、さらに「自己点検・評価の結果」を受けとめながら、本学の個性化、将来的方向性を明示した「学長方針」を毎年度策定し、各学部等の「教育・研究に関する年度計画書」の指針とするため学内に公表している。2015年度学長方針では「未来開拓力のある人材」を養成することを目標として、「次代を拓き、世界へ発信する大学」を目指し、教育の質を向上させるための教育課程、教育内容・方法の質的転換を進めることとしている。具体的には、社会の要請やグローバル社会に対応した国際通用性のあるカリキュラムの充実を目指し、学期制の見直しや英語コースの拡充などの「総合的教育改革」(基準4-1参照)を進めることを示している【1-1-11】。

## (2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員及び学生）に周知され、社会に公表されているか

### ① 構成員（学生、教職員）に対して周知し、その方法は有効であるか

建学の精神、使命及び理念を明確にした「明治大学グランドデザイン」、大学、大学院、法科大学院及び専門職大学院の「目的」、各学部・各研究科における「人材養成その他教育研究上の目的」を規定した各「学則」を、それぞれ大学ホームページに掲載し、広く周知・公表している【1-1-16】。

学生への周知は、各学部便覧に「学部の概要」として掲載し、また大学院便覧の巻頭に「建学の精神」「使命」、各研究科の初出ページに「目的」を掲載している他【1-1-17】、毎年新生に配付する「キャンパスハンドブック」に「明治大学発祥の地の碑文（東京都千代田区有楽町）」や「明治法律学校設立の趣旨（原文、現代語訳）」「建学の精神」「使命」を掲載している【1-1-18：1頁，81～83頁】。外国人留学生には「外国人留学生のためのハンドブック」に日本語と英語で「建学の精神と使命」を掲載している【1-1-19：1頁，61頁】。また、留学生の増加に対応し、外国語版ホームページ（英語・中国語繁体語・中国語簡体語・韓国語）を開設し「建学の精神と使命」を掲載しているが、このホームページへ

## 基準1 理念・目的

の年間アクセス件数は21,859件（2013年度）であり、2012年度の25,984件から減少している。建学の精神を体得することを目的の一つとして、新入生合宿などの正課外教育「M-Navi プログラム」を、2013年度には、21プログラム実施しており、808名が参加した【1-1-20】。学修支援システムと連携した公式スマートフォンアプリ「i Meiji (iOS版, Android版)」【1-1-22, 1-1-23】では、学生の学生生活を支援するとともに、本学の理念・目的の高揚に資するカレッジスポーツ等の情報を日本語、英語の2か国語で発信しており、2012年3月にリリース以降2014年10月までの間で、約16,100件（iOS版：約12,000件、Android版：約4,100件）がダウンロード利用されている。

これらの結果、2013年度「学修環境に関する学生アンケート（拡大試行版）調査」（2014年1月実施）では、本学の建学の精神「権利自由・独立自治」について、全体として「意味までよく知っている」（9.7%）、「言葉だけ知っている」（48.4%）を合わせて58.1%となった。

教職員には、「教員ハンドブック」に「建学の精神と使命」を日本語と英語で掲載し、外国人教員や兼任講師も含めて周知するとともに【1-1-24】、さらに「教職員手帳」に「建学の精神と使命」を掲載し、「学長室だより」を通じて学長方針等を周知しているが、認知度は不明である【1-1-25】。

本学の理念や目的及び教育・研究等に関するトピックを広く社会に伝えるため、広報課から報道各社にプレスリリースを配信し、その内容を大学ホームページでも公開することで大学構成員も共有している【1-1-26】。2013年度は、43本を発信し、その内容は、産学連携、公開講座、地域連携が多くなっている。

さらに、企画課では、「学事記録」を発行することで毎年度の現況を周知し【1-1-27：10～28頁】、また「概況資料集」では本学の沿革を含めた諸活動の経年的な推移等を示し【1-1-28：1～5頁】、教職員はグランドデザインの達成に向けた諸活動の成果を確認することができる。

教職員、学生および本学来校者等に向けて、全てのキャンパスに本学創立者3名と建学の精神をモチーフにしたレリーフ（石碑）がある【1-1-29】。なお、3名の本学創立者は、岸本が鳥取藩（鳥取県）、宮城が天童藩（山形県天童市）、矢代が鯖江藩（福井県鯖江市）出身であることから、社会連携機構では、これら3自治体と協力協定を締結している。同機構における「創立者出身地への学生派遣プログラム」には2013年度には3地域合計37名が参加し、建学の精神を深める取組みを進めている。

### ② 社会（受験生や高校、企業など）に対して公表しているか

受験生に向けては、大学ガイドブック【1-1-30】や受験情報誌等に建学の理念等の情報を掲載し、また大学院ガイドブック【1-1-31】においては、「スポット明治」というコーナーで建学の精神を説明している。さらに、国内外の賓客をはじめ一般向けに配布している「明治大学総合案内」【1-1-32】を4言語（日本語・英語・中国語・韓国語）で制作し、建学の理念を周知している。

## 基準1 理念・目的

また本学の特色ある授業を広く世界に公開することで、本学の理念・目的を広めるために、2010年8月から「iTunes U」による授業コンテンツの公開を行っている。2014年3月の段階で1500コンテンツを超え、現在、週平均2000件の視聴があり、多い週には7000件を超える視聴がある等、開かれた大学としての象徴的な存在となっている。

本学の理念や将来に向けた方向性を学内外に説明するために、「学長室」では、2010年度から学長室ホームページにおいて「学長スタッフによる教学政策の解説（学内ニュース解説）」の配信を開始した。この取り組みは、これまでニュースは事実を伝えるのみであり、政策的な意図や背景を伝える工夫が少なかった反省を踏まえ、新学部の検討や新しい施設の開設、高等教育や社会の動向への対応方針等について、その目的や背景を説明している。これは、2007年度の認証評価結果において「大学の意思決定プロセスが一般教職員に分かりにくい制度になっている」との指摘を受けた事項に対する改善策として実施したものであったが、2013年度は学内ニュース解説に適した案件が少なく、1件も更新できなかった。

### **(3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について、定期的に検証を行っているか**

理念・目的の検証主体は、第一に「学長スタッフ会議」であり、毎年度、学長方針の策定、また「学長室自己点検・評価報告書」を作成するなかで、学長方針の達成状況を点検・評価ことで理念・目的の適切性を検証している【1-1-33～35】。

学長方針の作成にあたっては、学長室自己点検・評価に加えて、「自己点検・評価全学委員会」においても「基準1：理念・目的」の点検・評価の適切性について「全学委員によるコメント」として、自己点検・評価の妥当性を点検する仕組みとなっている。

また外部有識者の意見として「自己点検・評価 評価委員会」から提出された「評価委員会による評価結果」を検証し【1-1-36：3頁】、さらに高等教育を取り巻く環境変化や「学長ヒアリング」での要望を分析しながら、優先順位を付して学長方針原案を策定し【1-1-37】【1-1-38：検討事項1】、さらに達成状況を確認するために「学長スタッフ会議検討課題推進スケジュール(ロードマップ)」を作成し、定期的に検証する仕組みとしている【1-1-39】。

これら制度を踏まえ、2013年度には、課題への対応や新たな取組みを加速させるために、学長スタッフ会議において、全学的な検討課題を項目化し、取組みに優先順位をつけ、計画的に実行に移せる仕組みを構築した。これにより取組む課題等の項目数が明確となり、また進捗管理が可能となった。2014年度は最優先に実施すべき項目が24項目選定されており、それぞれに担当者（学長室専門員）と納期が定められていることから、進捗状況に伴う取組みの検証および、教学政策の取組み項目数による定量的な検証が可能となった【1-1-40】。

なお、「明治大学グランドデザイン」は、2015年度で前半の5年間を終了するが、2013年度現在、グランドデザイン自体の検証や見直しに着手できていないため課題となっている。

## 2. 点検・評価

### (1) 効果が上がっている事項

#### ① 理念・目的の検証に「学修環境に関する学生アンケート」調査結果が活用されていること

2013年度「学修環境に関する学生アンケート（拡大試行版）」（2014年1月実施）では、建学の精神の認知度について58.1%となり、2012年度の36.1%に比べ向上した。肯定的意見は1年生～3年生においては55%～57%、4年生と研究科が63%を超え、学年別に差異があることが確認された。また、本学の理念「個を強くする大学」について、全体として「意味までよく知っている」（25.7%）、「言葉だけ知っている」（61.4%）は、合わせて87.1%となっており、建学の精神の認知度と比較して大幅に高くなっていることも判明した。また、建学の精神や教育理念を知った機会について「受験前後における大学案内や大学ホームページ」が56.97%、「オープンキャンパスや大学説明会」が23.1%と、入学前の各種機会が多数を占めており、「現状の説明」で自己評価した各種の取り組み効果は薄いことも判明している。以上のように、理念・目的の周知の現況把握に「学修環境に関する学生アンケート」は貢献している。

### (2) 改善すべき事項

#### ① 「明治大学グランドデザイン2020」及び「教育目標」の検証や見直しが行われていないこと

2011年度に当面2020年度までの構想をまとめたグランドデザインであり、2015年度には前半の5年間を終了するものの、その達成度の検証や見直し方法が策定されていない。グランドデザインに包含されている大学全体の「教育目標」についても、検証方法や見直し方法は、確立されていない。

#### ② 「教育・研究に関する年度計画書の策定にあたって（学長方針）」が社会一般に公表されていないこと

本学の「内部質保証システム」において、実質的な「各種方針」を包含している「学長方針」が社会一般には公表されていない。本学の大学全体の自己点検・評価は、学長方針に示された内容の達成状況を点検・評価することでPDCAサイクルを機能させているにも関わらず、点検・評価結果だけが公表され、評価対象である方針や諸計画が公表されていないので、PDCAサイクルが外部には分かりにくいものとなっている。

#### ③ 大学の理念・目的の実現に向けた方針が重複し、分かりにくいこと

本学には、法人運営の基本方針を示した「学校法人明治大学長期ビジョン」と教学運営の基本方針を示した「明治大学グランドデザイン2020」が存在し、いずれも10年後のビジョンを描き、実現するための施策が定められている。法人、教学にはそれぞれに異なった

役割があるにしても、建学の精神、理念、使命が一つであるにもかかわらず、異なる構想が2点公表されていることは、社会に対して分かりにくい状況となっている。

### 3. 将来に向けた発展方策

#### (1) 効果が上がっている事項

##### ① 理念・目的の検証に「学修環境に関する学生アンケート」調査結果が活用されていること

2013年度「学修環境に関する学生アンケート（拡大試行版）」（2014年1月実施）の結果から、理念・目的の周知について、入学後に理念・目的を理解する有効な機会が少ないことが浮き彫りになっている。同アンケート結果をもとに、「学長スタッフ会議」において本学の理念・目的を分かりやすく学生に明示する取り組みを進める。「自己点検・評価全学委員会」においては、次年度以降も恒常的に同アンケートを実施し、理念・目的を周知している効果を検証する。

#### (2) 改善すべき事項

##### ① 「明治大学グランドデザイン2020」及び「教育目標」の検証や見直しが行われていないこと

「学長スタッフ会議」において、「明治大学グランドデザイン2020」及び「教育目標」の検証方法について確定し、「将来構想委員会」の下で、検証を行い、前半5年間の総括を行う。2015年度が、グランドデザインの前半5年目の最終年となることから、2015年度中に、達成度の検証、見直し作業を終え、後半5年間のグランドデザイン、教育目標を公表する。

検証にあたっては学内における達成度の確認とともに、2012年8月の中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」に示された方向性、また「スーパーグローバル大学創成支援事業」における教育改革のフレームワーク等の外部要因等も踏まえ、教育目標や学習成果の明確化を図る。

##### ② 「教育・研究に関する年度計画書の策定にあたって（学長方針）」が社会一般に公表されていないこと

「学長スタッフ会議」において、「2015年度学長方針」（2014年度策定）の公表方針を検討し、2015年度中にホームページにおいて公表する。

その際に、学長方針が、各学部等が年度計画を策定する際の明確な指針となるような位置づけとなっていない点もあるので、大学全体で推進する事項と各学部が推進する事項、さらに各学部が責任主体となるものの大学全体で支援する事項等の区分し、社会に分かりやすく説明するよう工夫する。

##### ③ 大学の理念・目的の実現に向けた方針が重複し、分かりにくいこと

「明治大学グランドデザイン2020」は、2015年度に前半5年目の最終年度であり、検証

## 基準1 理念・目的

の時期となっている。「学校法人長期ビジョン」は、2014年度から中期計画第1期が開始されたところであり、直近で具体化が図られている。「学長スタッフ会議」及び「将来構想委員会」における「明治大学グランドデザイン2020」の検証、見直しにあたり、「長期ビジョン」との関係性を分かりやすく社会に説明するように配慮すると同時に、両者の到達目標や、達成時期についても整合を図る。

## 4. 根拠資料

- |   |  |
|---|--|
| 1-1-1 『明治大学小史』 8～10 頁, 19 頁                                       | 「Blackboard Mobile Central」                                |
| 1-1-2 『明治大学小史』 47 頁   | 1-1-24 教員ハンドブック 2013                                       |
| 1-1-3 明治大学グランドデザイン 2020—ビジョンと重点<br>施策—（評議員会報告資料, 2011 年 5 月 27 日） | 1-1-25 学長室だより「明治大学グランドデザイン 2020<br>—ビジョンと重点施策—」(No.94) (抄) |
| 1-1-4 明治大学学則  | 1-1-26 2013 年度プレスリリース一覧ホームページ                              |
| 1-1-5 明治大学大学院学則   | 1-1-27 2012 年度学事記録※2013 年 7 月発行                            |
| 1-1-6 明治大学法科大学院学則   | 1-1-28 2012 年度本学の概況資料集※2013 年 12 月発行                       |
| 1-1-7 明治大学専門職大学院学則  | 1-1-29 創立者肖像レリーフ記念碑の設置                                     |
| 1-1-8 明治大学学則別表 9  | 1-1-30 2015 年度明治大学ガイドブック（抜粋）<br>※2014 年 6 月発行              |
| 1-1-9 明治大学大学院学則別表 4   | 1-1-31 2015 年度明治大学大学院ガイドブック（抜粋）<br>※2014 年 6 月発行           |
| 1-1-10 明治大学専門職大学院学則別表 3   | 1-1-32 明治大学総合案内 2014 ※2014 年 4 月発行                         |
| 1-1-11 2015 年度教育・研究に関する年度計画書「学長<br>方針」（抜粋）※2014 年 5 月 21 日学部長会資料  | 1-1-33 2014 年度学長方針   |
| 1-1-12 学長ヒアリング関連資料  | 1-1-34 2013 年度学長スタッフ会議メンバー                                 |
| 1-1-13 学校法人明治大学長期ビジョン   | 1-1-35 2012 年度学長室自己点検・評価報告書                                |
| 1-1-14 学校法人明治大学中期計画策定委員会規程  | 1-1-36 評価委員会による評価結果—大学への提言                                 |
| 1-1-15 第 2 回中期計画策定委員会議事録  | 1-1-37 2014 年度教育・研究年度計画書に関する「学長、<br>教務・学務理事ヒアリング」スケジュール表   |
| 1-1-16 大学ホームページ「教育情報の公表」  | 1-1-38 学長スタッフ会議（2013-14）（2013 年 7 月 23 日<br>開催）検討事項 1      |
| 1-1-17 2013 年度大学院便覧（抜粋）   | 1-1-39 学長スタッフ会議検討課題推進スケジュール（ロ<br>ードマップ）                    |
| 1-1-18 Campus Handbook in2013                                     | 1-1-40 学長スタッフ会議検討課題一覧                                      |
| 1-1-19 外国人留学生のためのガイドブック   |  |
| 1-1-20 2013 年度明治大学データ集（表 44）                                      |  |
| 1-1-21 欠番   |  |
| 1-1-22 i Meiji チラシ  |  |
| 1-1-23 教育機関向けモバイルポータルシステム   |  |